北海道千歳リハビリテーション大学シラバス作成のガイドライン

平成 29 年 4 月初版

令和 5 年 1 月改正

令和 6 年 12 月改正

1. シラバスについて

近年、大学教育を取り巻く状況は大きく変化しており、平成 20 年 4 月の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」、同じく平成 24 年 3 月の答申「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」等において、学士力等の資質・能力の育成に関する課題や能動的な学びの推進、単位と学修時間の確認等に対する改善が求められています。

- (1) 教員にとって、シラバスは、体系的な教育課程を踏まえ、学習者の視点を考慮して、授業設計をするためのものです。

教員は、シラバスを作成することで、その授業で、学生の学士力向上のために、何を、どこまで、どの程度、どのように教えるのかを明確にできます。

作成したシラバスを実際に活用してみて、学生の学習意欲と学力向上の状況を確認しながら、徐々に質を高めていく姿勢が大切です。

また、シラバスは、教員と学生との「約束」であり、教員は授業に責任を持ちます。

- (2) 学生にとってシラバスは、その授業について知り、理解をするためのものです。学生は、シラバスを見て、自分が何のために何をどのように学び、何ができるようになるのかを明確化し、具体的にイメージすることができます。

- ①学生は、シラバスにより、その授業を履修するかどうかを判断します。
- ②学生は、シラバスにより、学習意欲が高まり、授業へ主体的に参加するようになります。
- ③学生は、シラバスにより、教科書・参考書・参考資料等や授業時間外学修（予習・復習等）を事前に知り、学習の準備を行います。

2. 本学のシラバスは、科目名、担当教員、開講専攻、分野、種別、配当年次、開講時期、単位数、授業形態という定型的な記載内容の他、以下の項目を記載することとします。

- (1) 科目概要
- (2) 学習目標
- (3) ナンバリングコード
- (4) 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
- (5) 開講回数別の授業の項目、主な学習内容、到達目標、実務経験教員の氏名など
- (6) 授業科目の評価方法
- (7) 課題に対するフィードバック
- (8) 使用教材
- (9) 参考図書
- (10) 学習の準備（時間外学習）

- (11) オフィスアワー
- (12) 実務経験がある教員の实務経験と授業内容

3. シラバス作成の際には、次の諸点に十分な留意を願います。

- (1) 科目概要 本学が開設する「授業科目の概要」に記載した文言をそのままお使いください。また、講義、グループ討議、ディベート、実技など授業の手段を記載すると学生も理解しやすいと思います。
- (2) 学習目標 この授業が受講生に何を習得させることを目標にしているのかを記載してください。
- (3) ナンバリングコード 授業科目を「学年」・「分野」等で分類し、科目ナンバーを付番することで、授業科目ごとの位置づけを示すことにより学修への一助とすることを目的としています。

AAA — B — C — DDD — E
主催区分 水準 分野 整理番号 授業形態

★主催区分

HRP：健康学部リハビリテーション学科理学療法専攻科目

HRO：健康学部リハビリテーション学科作業療法専攻科目

HRC：健康学部リハビリテーション学科共通教育科目

★科目の水準

1：1 年次

2：2 年次

3：3 年次

4：4 年次

★学問分野（指定規則に準ずる）

A：科学的思考の基礎

B：人間の生活

C：社会の理解

D：外国語

E：人体の構造と機能及び心身の発達

F：疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

G：保健医療福祉とリハビリテーションの理念

H：基礎理学療法学／基礎作業療法学

J：理学療法管理学／作業療法管理学

K：理学療法評価学／作業療法評価学

L：理学療法治療学
M：地域理学療法学
N：臨床実習

★整理番号（科目番号）

001～

★授業形態

- 1：講義
- 2：演習
- 3：実験・実技（臨床実習を含む）

(4) ※専攻毎のDPになります

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 本学が掲げるディプロマシーと授業科目の関連について明記することで、学習到達目標を認識しやすくします。

【理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー】

- ① 多様性の理解
適切な理学療法を提供するために、対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者一人ひとりの背景や価値観の多様性を尊重することができる。
- ② コミュニケーション力
対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者の理解に努め、自らの考えを適切に伝えることができる。
- ③ 専門知識と技術の活用
理学療法士として必要な専門知識と技術を習得し、安全に実施、活用することができる。
- ④ 課題発見・解決能力
現状を分析し、目的や課題を明らかにした上で、科学的根拠と論理的思考をもって解決に向けて柔軟に取り組むことができる。
- ⑤ 能動的に学び続ける力
医学・医療の進歩ならびに理学療法士に求められる社会のニーズの変化に対応するために、自ら積極的に学び自己研鑽を継続することができる。
- ⑥ 地域社会に貢献する姿勢と意欲
地域社会に根ざしたリハビリテーションの実践を通して、地域社会に貢献する理学療法士としての役割を理解することができる。

【作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー】

- ① 多様性の理解
作業療法士として関わる対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者一人ひとりの背景や価値観を尊重することができる。
 - ② コミュニケーション力
対象者やその家族、保健・医療・福祉関係者の多面的な理解に努め、作業療法士としての考えを適切に伝えることができる。
 - ③ 専門知識と技術の活用
作業療法士として必要な医学的知識、心理学的知識、社会学的知識を基盤として、作業療法の専門知識と技術を活用し、作業療法を実践することができる。
 - ④ 課題発見・解決能力
対象者と対象者を取り巻く環境の現状を分析し、課題を明らかにした上で、科学的根拠に基づき解決に向けて取り組むことができる。
 - ⑤ 能動的に学び続ける力
医学・医療の進歩と作業療法士に求められる社会的ニーズの変化に対応するために、能動的に自己研鑽することができる。
 - ⑥ 地域社会に貢献する姿勢と意欲
地域社会におけるリハビリテーションの実践を活かして、作業療法士として地域社会に貢献する意欲をもつことができる。
- (5) 開講回数別の授業の項目は、開講回数別に授業内容の要点を記載してください。
- (6) 評価方法には、例えば「レポート、小テスト、試験の結果から総合的に評価する」といった表現は避けてください。この例のように総合的に評価する場合には例えば「レポート 30%、小テスト 20%、筆記試験 50%」のように判定材料とその比率を明記してください。
- (7) 学習の準備には、大学設置基準上、1 単位当たり 45 時間の学修が必要とされていることから、授業時間だけでは満たさない時間を事前事後学習（予習・復習）として記載してください。
- (8) その他
- ① 出席は成績判定材料になりません。
 - ② 1 単位 8 回、2 単位 15 回の授業を確保してください。（期末試験は 15 回の中に含まれません。）

4. シラバスと関係規則など

- (1) 大学設置基準第 25 条の二を満たしていないシラバスが一科目でもある場合は、文部科学省並びに私学共済事業団への各種申請に際して齟齬を生じます。また、私立大学経常費補助金が大幅に減額されます。シラバスが文部科学省の事業への申請要件となっている場合は、申請ができなくなります。逆に、全授業科目のシラバスが要

件を満たしていることによって、教育研究環境がより充実し、大学運営がより安定します。

- (2) シラバスに関する認証評価の評価基準を満たしていない場合は、認証評価の際に、「改善」を求められ、場合によっては「不適合」「不認定」と評価されます。
- (3) 全授業科目について、授業形態、授業の到達目標、授業の概要、授業の方法、授業外学習（予習・復習等）、成績評価の方法・基準（配分割合）、授業計画を必ず適正に記載をお願いします。また、記載後は、学生の立場になってもう一度ご確認ください。

【参考】シラバスの項目一覧

- ①授業科目名
- ②授業形態【必須】
- ③開講期間
- ④単位
- ⑤担当教員名
- ⑥ナンバリングコード
- ⑦卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
- ⑧事前に受講して欲しい講義等
- ⑨事後に受講して欲しい講義等
- ⑩テーマ
- ⑪授業の目的
- ⑫授業の到達目標【必須】
- ⑬授業の概要（内容）（200～250字）【必須】
- ⑭授業の方法【必須】
- ⑮授業時間外学修（予習・復習等）【必須】
- ⑯評価の方法・基準（評価割合）【必須】
- ⑰課題に対するフィードバック
- ⑱特記事項（資格認定科目等）
- ⑲履修上の注意事項
- ⑳授業計画（テーマと内容等）【必須】
- ㉑教科書・テキスト
- ㉒参考書・参考資料・参考 URL 等
- ㉓備考
- ㉔連絡先（質問等）
- ㉕実務経験のある教員の担当授業であること
- ㉖実務教員の实務経験内容と授業内容

注）【必須】は大学設置基準による必須記載項目

(4) シラバスに関する認証評価の評価基準

【大学基準協会】

学生の学修意欲を促進させるために、適切な履修指導を行うとともに、適切なシラバスを作成し授業計画に基づいて教育研究指導を行い、授業形態、授業方法にも工夫を凝らすなど、学修の活性化のための十分な措置を講ずることが必要である。

【大学評価・学位授与機構】

- 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること
- 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【日本高等教育評価機構】

- 大学は、教育研究上の目的を達成するために、学部・研究科等の各教育組織において教育課程を編成し、学生にとって必要な学習量、教育評価の方法を定める必要があります。
- 教育目的が教育課程や教育方法等に十分反映されていること。
- 教育課程の編成方針に即して、体系的かつ適切に教育課程が設定されていること。

以上

平成 29 年 4 月

北海道千歳リハビリテーション大学事務局